

第3回

Aグループ

市民主体組織の活動方針の決定と
その活動方針の短期的な活動について

短期

緑化
整備

■空き店舗を解消してにぎわいを創出し、まちを活性化させる

■空き店舗に入店させるだけで終わらせるのではなく、特徴ある店舗として長く続けられるようサポートを行う

■市内の空き店舗一覧を作成したうえで、賃貸していない理由を整理し、改善可能な店舗については改善を促す

■若い人に入店してもらい、街をにぎやかにしてもらう

■経営に関する相談を受け、改善し、にぎわいを創出することが出来るよう、経営のスキルを持った方に組織活動に参加してもらう

■賃貸人と賃借人の仲立ちを行い、入店させ、まちの活性化を図る。

■空き店舗を活用した成功事例を積み重ね、活動内容を発信することにより、周辺住民も呼び込む

■市内の不動産業者に空き店舗の情報を提供し、仲立ちに協力してもらう。

空き店舗
活用

その他

第3回

Fグループ

市民主体組織の活動方針の決定と その活動方針の短期的な活動について

短期

緑化整備

■行田市駅から来訪する観光客の目に入るよう、忍城址～商工センター・行田市役所～りそな銀行沿道や、循環バスのバス停・バスターミナルに季節ごとに異なる花を植栽する。そのなかで、四季を感じることができる多年草を植えるとともに、植えた場所を区分けして管理を行う。管理は地元住民が管理できるか相談し、管理者が不足した場合は有志団体・小中学生等に管理を依頼する。

■「フラワーフェスティバル」「花コン(フラワーコンテスト)」を実施する。テレビ・新聞・ポスターを活用して人を呼び込み、投票箱は商店街に複数設置し、商店街に来訪者を立ち寄せ、商店街の活性化を図る。

■牧禎舎や忠次郎蔵など、市民が主体となって営業している店舗が少ない

■まち全体を考え、沿道には丈の短い花を植え、住宅街などには手入れが容易な薔薇の生垣にし、神社等には桜を植樹する。丈の短い沿道の花は小学生などが大人と一緒に管理できるように、沿道はレンガ造りでプランターを装飾できるようにする

■東日本大震災、熊本大地震で発生した廃材を市がもらい受け、その廃材を利用してプランターを作成する。また、組合に花を分けてもらうよう協力してもらい、花を植える前には、植物の高さや種類などルールを定める。

■空き地にログハウス風の建物を建設し、周囲に花を植える

■さんま祭りのような落ち葉を利用した焼き芋大会等を開催する

■地元商店や公民館が中心となり植物の管理を行っているJR行田駅周辺の事例に範を取る

空き店舗活用

■地元自治体が補助金を申請する

■ものづくり大学と協力し、長屋を建設する

■足袋、ゼリーフライ、忍城址、古代蓮、田んぼアート等、行田市独自のデザインが施されたストラップ(100～500円)を作成する

その他

■ものづくり大学の学生に馬車鉄道の模型を作らせる

■忍城址をイメージしたステージを作る

■フラベェやこぜにちゃんなどの、ゆるキャラストラップの作成をまちづくりに活用し、行田を活性化させる

■忍城址などのロケーションを利用し、行田をコスプレタウンにする

■観光地に案内板を設置する